



リオ・オリンピック 女子5000m予選 アビーとニッキのグッドフェロー



写真左側
ニッキ・ハン布林
(ニュージーランド)

写真右側
アビー・ダゴスティノ
(アメリカ)

転倒が呼んだドラマ

2016年、リオデジャネイロ五輪の陸上女子5000メートル予選で、転倒するアクシデントが発生した。

ドラマが起こったのは、ゴールまで残り2000メートルほどの地点だった。アビー・ダゴスティノ（アメリカ）とニッキ・ハン布林（ニュージーランド）の足が接触すると、2人はもつれあうようにして転倒。メダル獲得の夢がついていえたと思ったニッキは、がっくりとトラックに倒れ込んだ。

その彼女に、立ち上がるように優しく声をかけたのが、アビーだった。

転んでしまって『何が起こったの？なんで私は倒れているの？』と思っていたら、あの手が肩に寄せられて、『ほら、立ち上がって。ゴールしなきゃ』って。だから私も『確かにその通り。五輪なんだし、最後まで走らなきゃ』って思ったんです。

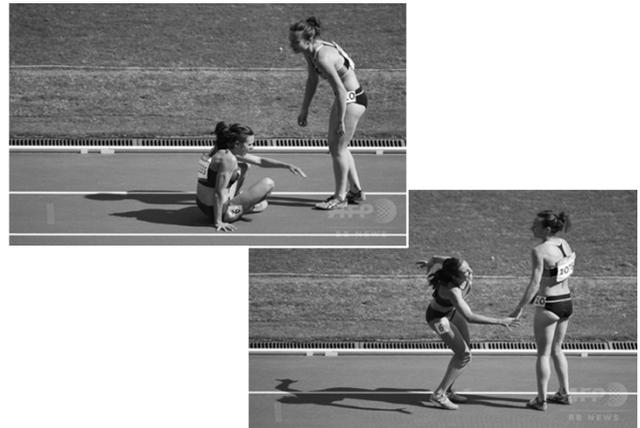
ニッキは、後にそう語った。

アビーの行動にはすごく感謝しています。彼女は五輪の精神の表れ。会うのはこれが初めてだけで、彼女みたいな人に出会ったのもこれが初めて。本当にすごくなかったですか？とても素敵な女性だと思います。

そう言って、ニッキはアビーに感謝した。

2人は走り始めるが、転倒した衝撃でアビーは右ひざを痛め、すぐに再び転倒。すると今度はニッキが手を添えて一緒に走り出した。（下の写真がそのシーン）

励ましながら2人は完走を果たした。



グッドフェローに救済措置

当初はどちらも予選敗退に終わったかに思われた2人だったが、大会主催者は「避けられない事故だった」と判断し、2人に対して決勝進出を認める救済措置をとった。

レース後、車いすで引き揚げたアビーをニッキは彼女こそ、五輪精神だと思う。と讃えた。

2人はこの日が初対面だったという。